

***第10回「住み続け再生」連続講座の概要記録**

タイトル：千里ニュータウンの過去から未来へーその誕生から成熟への過程

講師：角橋徹也（関西大学KSDP研究員・元大阪府企業局職員）

コメンテーター：奥居武（ニュータウン育ち・ニュータウン研究）

司会：岡田篤司

日時：01月17日（土）13:30～16:30

場所：大阪産業創造会館6階研修室A（参加者：19名）

●角橋さん講演内容

1) 自己紹介

・大学卒業後、京都市消防局勤務を経て、国家公務員試験合格し大阪府企業局企画課に配属。建設省などからの出向組みと一緒に、日本初の大規模ニュータウン千里の計画に取り組んだ。

2) 千里NTの概要

- ・敷地360ha、計画人口15万人、計画戸数3万戸、12住区、都心から15KM
- ・まち開き後50年を超えた
- ・開発手法：当初は一団地の住宅経営、あとで新住宅市街地開発法

3) 千里の開発の狙いとこれまでの問題

- ・開発目的：①大阪都市圏の人口増の受け皿、②良好な住宅地のモデル、③職住近接ではなくベッドタウン
- ・開発の特徴と問題：大規模性、短期決着、独立採算、高水準の住環境
- ：独立採算、インフラは企業局外、既存集落の排除、住民参加なし
- ・総合評価：
 - 積極的・・・公共デベのモデル、住宅地開発理論、生活スタイルを変えた、
 - 批判的・・・大阪都市圏の外延的膨張に拍車、開発主義の独走を加速、持続的開発か、市街地再開発へのインパクトなし

4) 千里の今後について

- ・千里が直面する課題：公的住宅の建て替えにおける住民参加推進
住民参加による地区・近隣センター施設更新と生活利便施設の拡充
文化・芸術・スポーツ活動への行政支援、地域緑化促進
- ・未来の千里に向けての対応：地域変容、人口減少＝過疎化、オールドタウン化、モノカルチャー

●奥居さんのコメント

- ・自己紹介・・・広告会社勤務。コストカッター役。
- ・日本のニュータウンは全部見た・・・日本のニュータウンの基本は、どこに行っても同じで、千里をみれば他のNTの今後も見えてくる
- ・千里はよし悪しあるが、でも一番いいと思う
- ・一番古く、モデル的に開発されたので、他のNTの今後に与える影響は大きい
- ・公的賃貸住宅多く今後の建て替えは大変だ・・・住民の立場でどのような再生が可能か
- ・千里も多くの問題あるが・・・子ども、若者の居住をどのようにして増やすか（建て替えてもマンションは50歳代ばかり。公的賃貸は高齢者ばかり）

●増永の感想：

今回は、音に聞こえた千里NT。

奥居さんが言われるように千里をみれば、他の日本のNTの将来がわかる、という意味からは千里の再生は極めて重要な意味を持つ。吹田市、豊中市にまたがって、居住者の意識は高くボランティアや自治会の活動、NPOその他多様な市民運動が盛んな地域。

では、角橋さんの講演にもあったような今後の千里のあり方を皆で設定し、それに向けてステークホルダーと居住者全員参加のもとで、少しずつでもステップアップしているのであろうか。どうも見えない。

「人口おおよそ10万、一つの市レベルであり、時間的にもまだまだまち開き50年なのだから、これからでは、あと50年はかかるのでは」、との意見もある。その通りであろう。これからの再生に向けての合意が必要ではなかろうか。

市民レベルでのまとまりや民間企業の参加を得ただけでは、まとまらないであろう。やはり、複雑な課題の解決方向と皆を纏め上げる、何らかの・強力な・まとめ役が不可欠ではなかろうか。市民や民間企業レベルで協力し連携しても、決められるものでもなくまた方針が決まれば動けるであろう。が、やはり羅針盤がなければ、どんなに強力な推進力があっても、大型船は蛇行しながらあらぬ方向にしか向かないのではなかろうか。やはり、国、府、地元自治体あるいは第三者の推進の公共体がいるのでは。

そのような方向か、もしくは現在の動きの延長での吹田・豊中の両市そして各種市民運動のコラボで、できるかぎり進め、具体の事業は民間に任せる。そして、時・チャンス・民意を見ながらその都度小刻な羅針盤を使って、修正しながら進めていくのか。

お二人の講演・コメントで千里の課題が結構見えてきたのではなかろうか。感謝。

今後とも大いに、議論をしましょう！！

(文責：増永)